＜研究論文＞

「日中対訳データベース」に基づく「～テクル」の中国語翻訳に関する考察

― 空間的移動の意味項を中心に ―

張　国峰*

はじめに

「～テクル」は空間的移動とアスペクトを本来とするものであり、日本語を学ぶ外国人学生と翻訳者にとっては、難点である。今までの研究では、「～テクル」は「～テイク」と対で対照比較されることがほとんどであり、外国語への翻訳に触れた研究成果はないのが現状である。

小論では、「空間的移動」意味項の翻訳のみを研究の範囲に入れることとする。基本的な構想は、日中両方の先行研究の成果を踏まえて、採用する分類と概念等を明らかにする。それから、『日中対訳データベース』に基づき、「空間的移動」の対訳例を分析する。そして、最終的には「～テクル」を中国語の対応する表現に翻訳する場合のルールと制限条件を総括する。

Ⅰ．先行研究と意味項の確定

1．日本語における「～テクル」の先行研究

「～テクル」は移動を本来とする「クル」から抽象されたものである。寺村（1984）は、先行動詞Ｖと「クル」の関係により、「～テクル」を「空間移動」と「アスペクト」との二つのカテゴリーに分ける。氏は先行動詞Ｖと「クル」の関係を以下のような三種類に分ける[1]。

Ⅰ　V--V型：はじめに「～テ」という動作があり、次にクルという動作があると考えることができるような結びつき。

例：日本へ来る途中、香港によっテ来マシタ。

Ⅱ　v-V型：「クル」が主たる述語、「～テ」がそれを副詞的に限定・修飾しているという「従――主」の関係の結びつき。

例：毎朝会社へ歩イテクル。

Ⅲ　V-v型　「～テ」が主たる述語、クルはその「～」が表わす事象が物理的、心理的に話し手のほうに近づくという意味を添えるような結びつき。

例：ピアノの音が聞コエテクル。

（以上：寺村1984）

同氏は（Ⅰ）（Ⅱ）は動作主の物理的移動であり、アスペクトの形式とみなさないのに対し、（Ⅲ）はアスペクトを受け持つ形式であると述べている。要するに、「～テクル」形式が空間的であるかアスペクトであるかを判断する基準も示した。

また、Hasegawa（1993）[2] は、「～テクル」を「物理的空間移動」、「認知的用法」、「時間的用法」との三つに分類した。そして、物理的空間移動は中心的意味からの派生の度合いにより

*中国福建省寧徳師範学院講師

さらにサブカテゴリーを設けた。

ア：動作主体の移動「移動と方向」。テクルが物理的空間における「移動」と「方向」を表し、本動詞の意味特徴が保持されている。この中には、ａ移動の様態・手段（毎日学校に歩いてくる）、ｂ動作・行為の順次性（ごはんを食べてきた）、ｃ付帯状況（学校に本を持ってくる）が含まれる。

イ：動作主体の移動「方向」。テクルが移動を表す動詞につき、移動の方向を表す（二階から荷物が落ちてきた）。

ウ：対象物の移動。目的語の移動を示す動詞についたもの（ジョンが私に花束を投げてきた。）ア、イと異なり、この用法では動作主体は移動せず、花束など対象物だけ移動する。

また、庵功雄（2005）は、補助動詞としての「～テクル」には、話し手など文中の特定の人物の視点を基準にした空間的移動の方向性を示す用法と、特定の時点からの出来事の時間的推移や展開のとらえ方を表す用法があるとされている。つまり、空間的用法と時間的用法である。その中、空間的用法には、主体の移動と対象の移動とが含まれる。時間的用法は基準時以前から基準時への推移･変化を表すと指摘された[3]。由井（1996）[4] など言語研究者も「～テクル」を論じてきた。

先行研究では、「～テクル」には多様な意味･用法が挙げられているが、先行研究に共通する見解はほぼ次のようにまとめられる。

①「～テクル」には、後項の「クル」が実質的な移動を表す本動詞と、抽象的な移動を表す補助動詞がある。

②「～テクル」の意味・用法をおおよそ「本動詞用法」､「空間的用法」､「アスペクト的用法」、その他に分けている。

２．本論での～テクル意味項の特徴について

先行研究での意味分類は皆文脈からの干渉を受けずにいた「孤立系」の意味である。「～テクル」の意味は先行動詞の意味内容によって左右され、同時に結合の可否も決定される。先行研究を踏まえて先行動詞の意味要素を図で示せば、以下のようになる。

		先行動詞Ｖの意味特徴							
		移動	変化	過程	方向	経路			意思
						空間	時間	観念的空間	
ＶＩ	ＶＩ（1）	―	―	―	―	―	―	―	＋
	ＶＩ（2）	＋	―	＋	―	＋	―	―	＋
	ＶＩ（3）	―	―	＋	―	―	―	―	＋
ＶＩＩ	ＶＩＩ（1）	＋	―	―	＋	＋	―	―	＋
	ＶＩＩ（2）	＋	―	―	―	＋	―	―	―
	ＶＩＩ（3）	―	―	＋	＋	―	―	―	＋
	ＶＩＩ（4）	―	＋	―	＋	―	―	＋	―
	ＶＩＩ（5）	―	＋	＋	―	―	＋	―	―
	ＶＩＩ（6）	―	―	＋	―	―	＋	―	＋
	ＶＩＩ（7）	―	―	―	―	―	＋	―	＋

「クル」はＶＩ類につくと、本動詞とみとめるられる。先行動詞Vが［―移動］［―変化］［―過程］［―方向］［―空間］［＋意志］という意味特徴を示す場合、Vと末尾動詞「クル」が「継起」の関係にある。先行動詞Vが［＋移動］［―変化］［＋過程］［―方向］［＋空間］［＋意志］という意味特徴を示す場合、「Vテクル」において、Vは「クル」の実現方法を表す。先行動詞Vが［―移動］［―変化］［＋過程］［―方向］［―空間］［＋意志］という意味特徴を示す場合、「Vテクル」におけるVは「クル」を実現する時の状態を表す。

「クル」がＶⅡ類につくと、補助動詞となる。先行動詞Vが［＋移動］［―変化］［―過程］［＋方向］［＋空間］［＋意志］という意味特徴を示す場合、「Vテクル」は主体の移動を表す。先行動詞Vが［＋移動］［―変化］［―過程］［―方向］［＋空間］［―意志］という意味特徴を示す場合、「Vテクル」は対象の移動を表す。先行動詞Vが［―移動］［―変化］［＋過程］［＋方向］［―空間］［＋意志］という意味特徴を示す場合、「Vテクル」は行為の方向性を表す。先行動詞が［―移動］［＋変化］［―過程］［＋方向］［＋観念的空間］［―意志］という意味特徴を示す場合、「Vテクル」は出現･生起を表す。先行動詞Vが［―移動］［＋変化］［＋過程］［―方向］［＋時間］［―意志］という意味特徴を示す場合、「Vテクル」は開始を表す。先行動詞Vが［―移動］［―変化］［＋過程］［―方向］［＋時間］［＋意志］という意味特徴を示す場合、「Vテクル」は継続を表す。先行動詞Vが［―移動］［―変化］［―過程］［―方向］［＋時間］［＋意志］という意味特徴を示す場合、「Vテクル」は「繰り返しの継続」を表す。

以上は、先行動詞の意味要素を図で示したものである。先行動詞によって「～テクル」の意味が一義的に決まるわけではなく、共起する副詞や文脈によって異なる場合も多い。したがって、特定の文脈においては、［＋移動］［＋変化］［＋過程］［＋方向］［＋時間］［＋意志］という意味特徴を示す先行動詞が出てくる可能性もある。

本論は、以上のように先行動詞の意味特徴で「Vテクル」の空間的意味用法を分類し、その中国語訳のルールを総括する。

３．中国語における関連する研究

空間的移動を表す「～テクル」は主に中国語の“来”組の趨向動詞と関わりをもっている。ここで、趨向動詞が述語動詞、補助動詞としての役割を考察の対象とする。とりわけ、趨向補語としての趨向動詞がよく分析する必要がある。劉月華（1998）[5] は、趨向補語の主な文法的意味は趨向意味、結果意味、状態意味の三種類に分けられると結論付けた。同氏は、すべての趨向補語は趨向意味を、大部分の趨向補語は結果意味を、数少ないのは状態意味を有していると述べている。卢英順（2001）[6] は、更に趨向意味を空間的な趨向と動作の趨向と二種類に分類している。前者は、趨向動詞は述語または連動式の一部を成すのに対し、後者は、趨向動詞は別の動詞の後につく趨向補語となってくる。そして、前項動詞が自動詞である場合は、その意味指向は唯一の動作主であり、先行動詞が他動詞である場合は、意味指向が対象である。この点は、劉月華（1998）と合致している。結果補語と同じように、趨向補語の意味指向は前項動詞の及ぼす人間や物事である。趨向補語の前に来る動詞が自動詞である場合は、一般的に趨向補語は動作主の趨向を示すものである。その反対に、前項動詞が他動詞である場合は、趨向補語はその対象の趨向を示すものである。別々に以下の例をあげている。

（a）气球升起来了。（气球——升，气球——起来）

（b）爸爸买回来一些苹果。（爸爸——买，苹果——回来）

（以上は劉月華1998）

II.「空間的移動」を示す「～テクル」の中国訳についての分析

この節では、『中日対訳語料庫』における「～テクル」の中国語訳を手がかりにし、「～テクル」が空間的移動を表す場合の中国語訳文の特徴を分析する。Ⅱでの先行動詞の意味要素に関する分析を踏まえ、「～テクル」の意味は具体的に「継起」、「方法」、「状態」、「話者への接近」の四項に分けることができる。いわゆる「継起」は、先行動詞が表す動作は、「クル」前にする動作のことである。「方法」は、「クル」時の方式のことであり、「状態」は、「クル」時の状態のことである。「話者へ接近」は、話者の現在地への近寄りである。そして、以下の1、2と3節では、「～テクル」の「クル」はすべて統語上本動詞であるのに対し、4節では、動作性を失い、補助動詞となってくる。断っておかなければならないのは、先行動詞によって「～テクル」の意味が一義的に決まるわけではなく、共起する副詞や文脈によって異なる場合も多い。その故、一つの動詞が異なる意味項に入りうることがある。

訳文のクオリティーを分析していくため、訳文のクオリティーを判断する基準が必要となる。林璋（2008）[7] では、良い訳文は自然さを前提して最大の対応関係を求めなければならないと指摘されている。また、対応関係は、「語用意図＞言語意味＞言葉の意味」という優先順序を守らなければならない。この部分では、訳文のクオリティー指標説に従って、抽出された例文を分析していく。

使われる例文は、全部『中日対訳語料庫』から選ばれるもので、「クル」の様々な活用形式が含まれている。

1.「継起」を表す場合の翻訳

（1）「ところが勝手でない、昨日、あすこの亭主が来て君に出て貰いたいと云うから、その訳を聞いてきたんだから亭主の云うのは尤もだ。」『坊ちゃん』

a “你偏巧没有这个自由。昨天，那边的房东来找我，要你搬走。我问他为什么，他说得很有道理。为了问清情况，我今早又赶到那里，听他详细说了一遍。”

b “可你自由不了。昨天你那里的房东来说，他要你搬出去。我问什么缘故，你那房东说得蛮有理。虽然如此，我为了弄清情况，今天早晨又到那儿去了一趟，问了个详细才来的。”

c “这可不是自由不自由的事。昨天房东来说要你搬走。我问了他为什么，房东说的有道理。但为了进一步证实此事，今天早晨我又到寓所去，把详细情况问了一遍。”

下線部の「聞く」と「くる」は、継起的関係にあり、「私」が「聞く」という動作をしてから、後の「くる」動作を起動するのである。両者は、対等な関係で結ばれている。統語から見れば、「きた」は本動詞で、文の述語をなしている。視点は話者の現在地「ココ」で、意味は、主体が「亭主のいる所」から「ここ」までの移動である。（1ｂ）の下線部「来」は本動詞で、“我”が“寓所”から「ここ」までの空間移動を表す。構造上から見ても意味上から見ても、原文とは対応している。（1ａ）、（1ｃ）には、「くる」の対応翻訳がない。（1ａ）、（1ｃ）は自然な訳文であるものの、原文とは最大の対応関係に至ら

ない。従って、林璋（2008）の訳文質量指標によって、(1ｂ）が一番適当な訳文となるわけだ。

(2) 燈を消そうとして見下ろした村道に、大ぜいの人が、犬の群のように息せいて駈ける音がきこえた。私は階下に下りた。玄関口には学友の一人が立っていて、起きてきた叔父叔母や私に、目を丸くして叫んだ。『金閣寺』

我刚要熄灯，只听楼下村头大道上，成群结队的人象狗一般气喘吁吁地跑过。我走下楼去，大门外一个同学对起床的叔父母和我瞪圆了眼睛在喊。

下線部の「起きてくる」は継起的な関係にあり、「起きる」ことが「くる」に先立って行われることである。当時の場面は「叔父叔母や私が起きて、それから部屋から階下までくる」わけである。訳文の中の“起床”は「起きる」だけの相応翻訳である。しかし、起きた叔父叔母や私が階下まで来なければ、学友の一人に叫ばれたこともありえなかっただろう。従って、「くる」の相応する翻訳の欠如で訳文が構造上でも意味上でも原文とは対応していない。以下の訳文は筆者が訳したものである。

我刚要熄灯，只听楼下村头大道上，成群结队的人象狗一般气喘吁吁地跑过。我走下楼去，大门外一个同学对起床过来的叔父母和我瞪圆了眼睛在喊。

次の（3）も同じような現象である。

(3)「今朝うちで起してくれないのよ。目が覚めてみたら十時半、七時に起きて来ようと思ってたのに、駄目になったわ。」　『雪国』

ａ“今早没人来叫我，醒来一看，已是十点半。本来是想七点起来的，却起不来了。”

ｂ“今天早晨没有叫我。一睁开眼已经十点半，本来想七点钟起床就来的，可是没办到。”

(2) と同じように、「起きて来よう」は、「起きてから、ここへ来よう」という意味である。「来よう」は本動詞として、「寝る所から、現在地へ来よう」という移動を表す。(3ａ）の下線部“起来”は「起きる」のみの翻訳である。本動詞「来よう」が訳されずにいるゆえ、意味上でも構造上でも原文とは相応していない。(3ｂ）の下線部“来”は「来よう」の翻訳で、本動詞である。“起床就来”は、“起床”の動作をして、それから“来”の動作をするということになる。意味上でも構造上でも原文とは相応している。

以上の（1）と（2）は全部「NハＶテクル」の文型であるのに対し、次の（4）（5）は少々異なる様相を呈する。

(4) 玉枝は蒼い顔をして戸口まで出て喜助をむかえた。喜助は紐で結わえた紙包みを玉枝にわたして、「羽二重餅を買うてきた」といった。『坊ちゃん』

玉枝脸色苍白地到门口迎接喜助。喜助将一个用带子捆好的纸包递给玉枝，说道：“我买来了糯米软糕。”

吉川（1976）[8] は、「買う」を「何かを手に入れることを意味するものである」と述べている。ここで、「買う」と「くる」は継起的な関係にあると認めれば、劉月華（1998）によると、「喜助――買う、喜助――くる」のような意味指向が出てくるわけである。そうすれば、訳文は自然であるが、最大の対応関係を得ないことになってしまう。もし「玉枝脸色苍白地到门口迎接喜助。喜助将一个用带子捆好的纸包递给玉枝，说道：“我买糯米软糕回来了。”」と翻訳されると、先に述べた意味指向とは対応するようになる。

なお、訳文の“买来了糯米软糕”が間違っているわけでない。なぜかというと、(3) では主体だけでなく、対象の移動も事実上存在することも認めなければならないためである。つまり、(3) の「買ってくる」が継起的関係にあるかそ

れとも4の「対象の移動」にあるか判断しにくい所がある。そのため、訳文の“买来”は自然で、受け入れられるのではないか。

特殊な例として「行って来る」の例を挙げて分析することにする。

（5）先生「この前、先生も他のクラスの先生と一緒に行ってきたけど、本当にたいへんでした。それでも、みんなはだいじょうぶかな？」『五体不満足』

“上周我和别的班的老师一起去弘法山察看过，那是一座险要的山。同学们怕不怕?”

吉川（1976）に従えば、(5）の「行ってくる」における「行く」と「クル」とが継起的な関係にあるにもかかわらず、事実上（5）は先行動詞「イク」の動作をしてから「クル」をスタートする意味を積極的に読み取れない。これは、「行って」それから起点に戻るという動作であるため、「クル」に起動性が強く感じられないのである。「行ってくる」の「クル」をそのまま中国語の“来、过来、回来”などと翻訳されると、不自然な訳文になってしまう従って、自然な訳文を得るため、構造上の対応を求めず、「クル」を場合によって翻訳しなくてもいい。そこで、上の翻訳は適当である。これは、挨拶言葉の「行ってきます」にも当てはまる。

以上の分析から見れば、「継起」を表すものの、文脈における「クル」の動作性の強みによって、「クル」はさらに「継起を表す本動詞」と「継起的な補助動詞」との二種類に分けられることが分かる。「クル」が本動詞である場合、「クル」を中国語の“来 / 过来 / 回来”など“来”組の趨向動詞と翻訳すれば良い。(4）のように対象の移動につながる場合は、「～テクル」を中国語の“动词+来 / 过来 / 回来”など「動詞＋“来”の趨向補語」と翻訳して良いだろう。

2．「様式」を表す場合の中国語翻訳

この場合、先行動詞は、「クル」動作がどのような方法で実現するかを示し、連用修飾的機能をもつと考えられる。先行動詞は、方向性のない移動を実現する自動詞である。移動主体自身の行動であるため、同時進行となる。この場合、先行動詞ははしる、あるく、かける、およぐ、わたるなどの自動詞である。

(6)「うちへ寄っていただこうと思って、走って来たんですわ。」『雪国』

a “想请你到我家来坐坐，才跑过来的啊。”

b “我想请你到我家里去，所以跑来了。”

「走ってきた」において、先行動詞の「走って」は連用修飾成分として、移動動作「クル」の実現方法を表すが、統語的には、「クル」が本動詞であるが実質の動作性がそれほど感じられない。(6 a）、(6 b）の下線部はそれぞれの対応翻訳であり、“跑”につく“过来”、“来”は補語となり、先行動詞“跑”の具体的な方向を示すようになる。しかし、訳文の“跑过来”“跑来”から自然に“跑”が“过来” と“来”の実現方法であることが読み取れる。原文と異なるのは、「走ってきた」における「クル」が統語的に本動詞とみなされるが、その対応翻訳の“过来”も“来”も補助動詞になってしまうということに過ぎない。訳文と原文は構造的に対応していないが意味上は一致している。従って、(6 a）(6 b）の翻訳は皆適当なものである。

（7）新橋駅の近くのガードの下で、杏子はまた向うから駆けて来た男とぶつかった。

『明日来る人』

在新桥站附近的铁路桥下，杏子又同对面跑来的男子撞个满怀。

「駆けてきた」では、「かける」は連用修飾成分として「クル」の具体的な手段や実現方法を表すが、(6）と同じように「クル」の動作性が

あまり強く感じられない。訳文では、統語的に“跑来”では、“跑”は本動詞として述語の核心を構成し、“来”は補助動詞として方向を添えている。訳文と原文は、構造的に対応していないが意味的には対応している。このような例文が大量に見られた。

(8)「なぜ走って来たのよ」と喘いでいる僕に女子学生がいった。

『死者の奢り』

“干嘛跑着来呢？”女学生看着气喘吁吁的我说。

(8) の「走って来た」では、「走って」は連用修飾成分で、移動動作「クル」がいかに実現されるかを具現する働きをもっている。ここでの「クル」が実質的な移動を表す本動詞となる。なぜかというと、文脈から分かるように、女子学生がなぜ僕が来たのかではなく、僕が走っている方法か状態で来たのかということに関心を持つからである。対応翻訳は“跑着来”である。“着”は動態を表す助詞で“跑着来”は連動式となる。吕叔湘（1998）[9] によると、連動式“動詞１+着+動詞２”では、“動詞１”は単音節の動作性のある動詞である場合がほとんどである。また、“動詞１”と“動詞２”との意味関係をこのように三種類に分ける。①２つの動作が同時進行の関係にあり、“動詞１”が“動詞２”の方式を表すこともある。②“動詞１”と“動詞２”とはある手段か目的の関係にある。③“動詞１”が進行している中で“動詞２”が始まる。ここでは、①の意味項になる)、“跑来”と比べて“跑着来”のほうがもっと「走る」という方法を強調する傾向があるのではないか。訳文の“跑着来”は副詞的修飾成分で、主体が“跑”という方法で来たということを十分に示しうると思う。従って訳文は意味的に原文とは対応している。ところが、(13) の訳文を以下のように翻訳されたらどうか。

“干嘛跑（过）来呢”女学生看着气喘吁吁的我说。

下線部の“跑过来”における述語の核心をなす“跑”にはアクセントがあるのに対し、補助動詞としての“（过）来”にはアクセントがない。その故、意味上の対応から見ると、元の訳文とさほどの開きがない。

先に述べたように「クル」が動作性をかける場合は、中国語の“動詞+来 / 过来 / 回来”（この点は次の4の節に於ける主体の移動とつながる）と翻訳する傾向がある。(8) のように先行動詞の表す方法を強調する場合は、中国語の“動詞+（着）+来 / 过来 / 回来”と翻訳する傾向がある。ただし、中国語の動趨構造において、先行動詞にアクセントがあるため、そのもの自身が強調の働きをもつ故に、後者の方は、前の“動詞+来 / 过来 / 回来”と訳しても良い。

３.「状態」を表す場合の翻訳

本節は「状態」を表す「～テクル」の翻訳を分析する。確かに前節２の「来る」方法を表す「走ってくる」の「走って」も状態を表すが、ここで取り上げる状態とは、前節２で扱ったようなものではない。この場合、先行動詞は主にかつぐ、くわえる、つれる、もつ、きるなどの再帰動詞である。工藤（1995）[10] はこのような動詞を「主体変化・主体動作動詞」とも呼んでいる。ただし、先行動詞が「もつ」である場合がほとんどである。本節はまず「モッテクル」を例に取りながら分析を進めていく。

(9) おれが椽鼻で清の手紙をひらつかせながら、考え込んでいると、しきりの襖をあけて、萩野の御婆さんが晩めしを持ってきた。

『坊ちゃん』

a 我坐在廊子上，让阿清的信随风飘扬着，陷入了沉思。这时，荻野老婆婆拉开紧闭的隔扇，

端着晩饭进来了。

b 俺坐在廊子边缘上，让这封信在风里吹动着，深深陷入了沉思。这时，荻野老婆婆推开了隔断的纸　门，拿晩饭来了。

c　我坐在廊下，任风吹着阿清婆的信，陷入了沉思。这时，荻野老太太拉开了身后的纸拉门，端来了晩饭。

「晩めしを持ってきた」は、主体の荻野が「晩めしを持っている状態で、やってくる」ということを意味する。（9 a ）の下線部は対応の翻訳である。“端着”は副詞的修飾成分のような働きをして“进来”時の様態を表す。ここで中国語において“動詞+着”は様態か状態を表す表現である。（9 b ）では、“拿晩饭来了”では、“拿晩饭”という行為は、“来”の目的となってしまう。誤訳となってしまう。（9 c ）の対応翻訳は“端来”である。“端”は本動詞で、“来”は補助動詞である。また“来”の意味指向は対象の“晩饭”になる。訳文が自然なものである。次の（10）は異なる様相を呈する。

（10）島村が火燵へ足を入れたままごろ寝して煙草の灰を落すと、それを駒子はハンカチでそっと拭き取っては、灰皿をもって来た。

『雪国』

a 岛村把腿伸进被炉里，就这样无所事事地抽着烟。烟灰掉落下来，驹子就悄悄地用手绢揩净，并给他拿来了一个烟灰缸。

b 岛村把脚伸进被炉里歪着身子，香烟灰掉下来，驹子赶快用手帕抹掉，她拿来了烟灰缸。

前の（9）と異なり、「灰皿をもってきた」を「灰皿をもっている状態で、くる」と解説されにくい。これは、「クル」が駒子の移動を表すと言うよりも、対象の「灰皿」を指向する傾向があるからである。二つの対応翻訳は全部“拿来”である。“拿来”において、補助動詞としての“来”は意味上“烟灰缸”を指向する。翻訳は意味的に原文とは対応している。もしここの「クル」を主体の移動を表す本動詞と見なされば、以下のような不自然な訳文が出てくるかもしれない。

岛村把脚伸进暖笼，躺在那儿抽烟。烟灰掉了，驹子用手帕轻轻拾掇起来，然后就拿着一个烟灰缸来了。

以下は「モッテクル」以外の例文である。

（11）　僕も長靴を履くべきだったのかもしれない。午後からは忘れないで履いて来よう。

『斜陽』

也许我也应该穿长靴吧。下午别忘了穿着来呵。

「履く」は「再帰動詞」である。ここで、「履いて来る」は「履いている状態で、来る」を意味している。訳文の下線部“穿着来”は対応翻訳であり、“穿着”は“来”の過程に伴う様態を示す。そこで、訳文は原文と意味的に対応している。

（12）こないだも、柳井の兄貴の結婚式に、あんちきしょう、タキシイドなんか着て、なんだってまた、タキシイドなんかを着て来る必要があるんだ、それはまあいいとして、テーブルスピーチの時に……　『斜陽』

就是前几天，柳井的哥哥举行婚礼，那畜生穿着无尾礼服什么，可有什么必要穿无尾礼服来呢，这且不去说它，在席上致词时…

「（タキシイドなんかを）着て来る」の対応翻訳は“穿（无尾礼服）来”である。“着”がなくても訳文がやはり意味上原文と対応している。

（13）二時間ほどして叔父さまが、村の先生を連れて来られた。村の先生は、もうだいぶおとし寄りのようで、そうして仙台平の袴を着け、白足袋をはいておられた。

『斜陽』

过了两小时左右，舅舅带着村里一位医生回来了。医生看上去年纪相当大，穿着礼装裙裤，是用仙台特产的高级丝绸做的，脚上穿着日本的白布袜。

「連れて来られた」における「来られる」は「来る」の敬語で、「先生を連れている状態」で来られるということを意味している。訳文の下線部が対応翻訳である。“带着…回来”において、“带着…”は“回来”が進行中の具体的な様態を表す。意味的に原文とは対応している。

以上の例文は先行動詞が再帰動詞であるのに対し、(14) は先行動詞が再帰動詞以外のものとなる。ただしその例文がまれに見られた。

(14) そして勝手な要求ばかりするものですから、友だちからこずかれたり、叩かれたりします。そのたびに泣いて来るので、イライラしてしまいます。

『一人っ子の上手な育て方』

由于总是提一些无理的要求所以总挨大孩子们的拳头和巴掌。而每次哭着回来向父母告状时，总使父母很焦虑。

「泣いて来る」は「泣いている状態で、来る」ということを意味する。ここで「来る」が実際の移動を示す本動詞となる。下線部の“哭着”は、“来”動作をしている過程における付随している状態か様態を表す。意味的に原文とは対応している。

大量の例文を分析した結果、「～テクル」の先行動詞は再帰動詞に限るわけではなく、稀にそれ以外の動詞（例えば：泣く）もあるということが分かった。「～テクル」の翻訳は以下の二種類に分けられる。(1)「クル」が本動詞として意味的に主体の移動を表す場合は、中国語の“動詞+着+来 / 过来 / 回来”などと翻訳する傾向がある。(2)「クル」の動作性が弱く、意味的に対象の近寄りを指向する場合は、“動詞+来 / 过来 / 回来”などと訳す傾向がある。これこそきちんと判断する必要があるところである。

4.「話者への接近」を表す場合の翻訳

この場合、「～テクル」において先行動詞は述語の核心をなし、「クル」は方向を表す補助動詞となる。先行動詞は移動動詞がほとんどであるが、具体的に主体の移動と対象の移動との二種類が含まれる。数少ない方向動詞も見られる。本節で「ヤッテクル」を対象外にする。なぜかというと、「ヤッテクル」が固定しており、まとまった一語として用いられるためである。

4.1 主体の移動を表す場合の翻訳

この場合、先行動詞は、はいる、でる、おちる、のぼる、あがるなど移動動詞である。

(15)「知らないわ。裏から上って来たのよ。」

『雪国』

“不晓得，我从后面上来的。”

「上がって来る」において「上がる」は述語の核をなし、「来る」が補助動詞で先行動詞の趨向を表す。「上がる」そのものは「下→上」の移動を示すが、「上がって来る」はその移動が話者のところへ向かって進められているということを意味している。対応翻訳の“上来”は複合趨向動詞で、趨向上の意味が低い場所から高い場所への移動を意味し、視点が話者の現在地にある。訳文が原文とは意味的にも構造的にも対応している。

(16) 内湯から出て来ると、ロシア女の物売りが玄関に腰かけていた。 『雪国』

a 从室内温泉出来，只见一个叫卖的俄国女人坐在大门口。

b 从浴池里走出来，看见卖东西的俄国女人坐在大门口。

「出る」はうちから外への移動を表し、「出て来る」は内湯から外経の移動を表し、移動の視点は外にある。(16 a) では対応翻訳の“出来”は複合趨向動詞で、ウチからソトへの移動を意

味する。視点は話者の現在位置にある。意味的にも構造的にも原文とは対応している。（16ｂ）では対応翻訳の“走出来”において“走”は本動詞として述語の中核をなし、“出来”の実現方法を表現する。（16ｂ）は自然な訳文であるに間違いないが意味的にも原文とは少々対応していない。これは「出る」の実現方法は“走”に限らず不明確になったためである。

（17）「まだですわ。だって、お電話でそのまま飛び出して来たんですもの」『あした来る人』

“还没呢。接到电话就跑出来的嘛！”

「飛び出す」は「勢い良く外に出る。急におどり出る」と解説されている（『学研国語大辞典』）。ここで、「飛び出す」はウチからソトへの移動を表し、「来る」は補助動詞としてソトという視点を添えている。対応翻訳は下線部の“跑出来”である。“跑”は話者が出る方法で急いだ様子を呈している。“出来”は複合趨向補語で、視点が現在地であることを添えている。訳文は意味的にも構造的にも原文と対応している。

（18）朝起きて、出勤して、午後四時に帰って来て、同じように細君の顔を見て、飯を食って眠るという単調なる生活につくづく倦き果てて了った。『布団』

早晨起床、上班；下午四点钟回家，依旧望着妻子的面孔，吃饭、睡觉。这种单调的生活，实在叫人厌倦透了。

「帰る」はもともと元の所へ戻るということを意味し、「家」とははっきりした関係があまり感じられない。ただし文脈から主体が戻る場所は家こそである。「帰って来る」は主体が働き先で用をすませて元いた家に戻るということを意味している。だから下線部の“回家”は自然な訳文である。

以上のように主体の移動を表す「～テクル」の中国語翻訳は以下の二通りであることが分かる。（1）：主に中国語の“回来/上来/下来/出来/进来”など複合趨向動詞と翻訳できる。（2）：まれに“動詞+来/来の複合趨向補語”とも翻訳できるが、中国語の先行動詞と補語が融合できるかもしれない点を考慮する必要がある。

４．２対象の移動を表す場合の翻訳

（19）酒が運ばれて来ると、トンカツを頼んだ。『あした来る人』

酒拿来后，便吩咐上炸猪排。

「酒が運ばれて来る」において主語である酒は意味上対象となり、動作主は表に現れなくても酒屋の人であると推測できよう。加線部の“拿来”は対応翻訳で、動趨構造である。「（酒屋の）人――拿；酒――来」という意味指向が読み取れるのである。“酒拿来”は意味上運ばれる対象である。構造的にも意味的にも原文と対応している。

この場合、「～テクル」を中国語の“動詞+来／回来等趨向補語”と翻訳するのが一般的である。

４．３その他の場合の翻訳

この場合、先行動詞は主に意志のある方向動詞で、いう、ほえかかる、（電話を）かける、話しかけるなどが挙げられる。「～テクル」が行為の方向性を表すようになる。

（20）僕は十二月の始めに直子に手紙を書いて、冬休みにそちらに会いに行ってかまわないだろうかと訊ねた。レイコさんが返事を書いてきた。『ノルウェイの森』

12月初，我给直子写了封信，告诉她寒假想去探望，问她可不可以。玲子写来回信。

「書く」は前述した方向動詞である。「書いてきた」は移動とは関わりなく、「書く」という動作が「僕」のためだということを意味してい

る。省略された対象が「私に」であるに間違いない。対応翻訳の“写来”は“動詞+趨向補語”で、その視点は話者の現在地にある。訳文は原文と意味上、構造上対応している。

（21）その紙幣を探す序でに、鏡台の引出しを掃除し、机や整理棚の小引出しを全部抜き出して片づけているところへ、大阪から上京して築地の第三ホテルに泊っている父親から電話がかかって来たのである。　　『あした来る人』

趁找钱之机，她清理了梳妆台抽屉，桌子和衣柜上的小抽屉也统统整理一番。正拾缀着，从大阪来京住在第三饭店的父亲打来了电话。

「かかってきた」も移動とかかわりなく、補助動詞「クル」の表す視点は主人公の現在地にある。対応翻訳は“打来”で、“動詞+趨向補語”の構造である。“打来”において“来”は補助動詞で、その視点が動作主の現在地にある。意味上、構造上原文と対応している。

この場合、「～テクル」の翻訳は二種類に分ける。先行動詞がいう、問うなど言葉を口に出すものであれば、「～テクル」が翻訳されずにすむ。先行動詞がそうでない場合は、“動詞+来 / 过来等趨向動詞”と翻訳できる。

Ⅲ．結論

本論では、『中日対訳コーパス』における「～テクル」の空間的移動意味項の中国語翻訳を考察の対象とし、日本語の「～テクル」を中国語に翻訳する場合のルールをまとめようとした。考察の結果、以下の結論が出た。

ア「継起」：“来 / 过来 / 回来”など“来”組の趨向動詞と翻訳することができる。

イ「様式」：“動詞+来 / 过来 / 回来”と翻訳することができる。ただし、先行動詞の表す方法を強調する時、“動詞+（着）+来 / 过来 / 回来”と翻訳することもできる。

ウ「状態」：“動詞+（着）+来 / 过来 / 回来”と翻訳することができる。

エ「主体の移動」：“回来/上来/下来/出来/进来”など“来”組の複合趨向動詞と翻訳することができる。まれに“動詞+来/来的複合趨向補語”と翻訳できるが、中国語の先行動詞と補語が融合できるかもしれない点を考慮する必要がある。

オ「対象の移動」：「～テクル」を“動詞+来 / 回来等趨向補語”と翻訳する。カ：その他、先行動詞がいうなど言葉を口に出すものであれば、「～テクル」を翻訳さずにすみ、そうでないものであれば、“動詞+来 / 过来等”と翻訳することができる。

参考文献：

寺村秀．1984,『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』，東京：くろしお出版。

Hasegawa．1993. Hasegawa,Yoko,1996,A study of Japanese clause linkage: The connective TE in Japanese. Kuroshio Publisher&CSLI.

庵功雄2005. 2000.『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』, 株式会社スリーエーネットワーク。

由井紀久子．1996.日本語動詞の意味の抽象化過程―イク・クル・ミルの意味分析を中心に，大阪文学部『大阪大学文学部紀要』。

刘月华，1998,《趋向补语通释》，北京：北京语言文化大学出版社。

卢英顺，2000，现代汉语中的“延续体”，《安徽师范大学学报（人文社会科学版）》, 2000年8月，第28卷第3期，430-435。

林 璋，2008，关于译文的质量指标——可接受性+最大对应关系，《日语学习与研究》，2008年第四期，总第137期，1—6。

吉川武時．1976.「現代日本語動詞のアスペクトの研究」，金田一春彦　編『日本語動詞のアスペクト』，むぎ書房157―327。
吕叔湘，1982,《中国文法要略》，北京：商务印书馆。
工藤真由美，1995,『アスペクト・テンス体系とテクスト－現代日本語の時間の表現－』，東京：ひつじ書房。